

平成二十三年年度 地域文化化学研究報告書

地域文化学1班

小国町の形・贅の
成り立ちについて

ご指導いただいた大学の先生
山形大学 地域教育文化学部
川邊 孝幸 先生

班員
安達洗希 伊藤 翼 伊藤有汰 梅津慎五
遠藤春菜 齋藤大樹 島貫 優 舟山慶太

私たちの住んでいる小国町の大地や、当たり前のよう
に目にしている山々は「何でできているのか」、「どの
ようにしてつくられたのか」を知るために、川邊孝幸先生
のご指導のもと、学習・調査を行いました。

沖鷹神社の山より撮影した小国町（2011.5.9）

地域文化学2班

農業廃棄物を利用した
汚染飲料水浄化プロジェクト
～もみ殻で世界と小国町を救う～

ご指導いただいた大学の先生
山形大学工学部 環境工学研究科
機械系分子工学分野
皆川 雅朋 先生

班員：安部健翔 安部圭則 荒川哲太 伊藤志太
関本義太 吉川昭 船山真吾 渡部健太

現在、ヒメなどの有毒物質を含んだ水を飲んでいいる人が世界にど
の位いるかわかりませんが、ある国では、国民の半数以上が飲んでいる
ます。そこで、小国町で農業廃棄物であるもみ殻を有効活用して汚
染飲料水を浄化できないかと考え、テーマを設定し調査しました。ま
た、工場から出される工業用排水にもみ殻を利用し、環境に優しく
浄化できるのではないかと考えました。
地域資源を活用した町づくりの在り方を追究します！

地域文化学4班

おぼろ（おぼろ）
第四弾の発信

ご指導いただいた大学の先生
東北公益文科大学
公益学科
呉 尚浩 先生

班員：伊藤悠希・中原浩憲・山口桃果・和田梨里・市川拓実・
伊藤浩祐・小嶋真輝人・峰田翔太・色摩千帆



旧小玉川小中学校

地域文化学5班

私たちができるパワースポット
～小国町の魅力を求めて～

ご指導いただいた大学の先生
山形大学 日本文化学部
原 淳一 先生

班員：小松 明 堀田貴博 藤田 健 橋本 健 佐藤 健

パワースポットとは、自然のエネルギーが集中している場所のことです。その
中でも、小国町には多くのパワースポットが存在しています。その中でも、
最も有名なパワースポットは、小国町の中心地にある「小国町役場」です。
このパワースポットは、小国町の歴史と文化を象徴する場所であり、
多くの人々が訪れる場所です。私たちは、このパワースポットの魅力を
発信し、小国町の魅力を伝えることを目指しています。

地域文化学3班

地域文化学から探る小国町
昔物語から探る小国町

ご指導いただいた大学の先生
東北文科大学 短期大学部
総合文化学科
菊地和博 先生

班員：齋藤 香穂 渡邊宗一郎 眞人 拓海
副班員：塚原奈々枝 小川 奈美 鈴木 拓海
渡部 志ノ

私たちは幼い頃より生活の中で、小国の町に伝わる
昔物語を聞いて育って来ました。
そんな親しみある昔物語を調べ、それを足がかりに
小国町の歴史について調査していきたいと考えました。

地域文化学6班

小国町における
保育と介護の現状

ご指導いただいた大学の先生
羽陽学園短期大学
佐々木 達雄 先生

班員 今野美涼 坂上千賀 齋藤奈々
相馬良南 栗野綾乃 佐藤 菜
山口菜耶 和田愛結美

地域文化学7班

テーマ
小国町の医療と福祉の
現状と課題

ご指導いただいた大学の先生
三友堂病院看護専門学校
遠藤 美穂子 先生

班員：木村卓也・今 瑞葉・今 幸哉
舟山悠一 齋藤 悠一 安部 悠一
安部 悠一 齋藤 悠一 安部 悠一

山形県立小国高等学校

「小国町の地形・地質の成り立ちについて」

班員	安達 洸希	伊藤 翼	伊藤 有汰	梅津 慎五
	遠藤 春菜	齋藤 大樹	島貫 優	舟山 慶太

1. テーマ設定の理由

自分たちが住んでいる小国町の地質はどのようにして成り立っているのか、小国町にある山などの地形はどうやってできたのかに興味を持った。また、今年は、地震や大雨による土砂災害などが多発し、大きな被害が出ていることから、小国町の地形や地質を理解することが防災への知識に活かせるのではないかと思い、このテーマを設定した。

2. 調査の概要

(1) 立体地図模型の製作

小国町の全体の地形を知るために、2万5千分の1の地形図をもとに製作した。

(2) 野外調査

赤芝峡付近(8月8日)と沖庭神社のある山(8月9日)に行き、地形や地質の観察、石の採集を行った。

3. 調査の結果

(1) 小国の地形的特徴

○荒川の低地を挟んで、西側が急な高い山、東側はなだらかな丘陵になっている。

- ・地質図では、荒川の低地と西側の山との間に断層がある
- ・谷の入り方も西側と東側では異なっていて、西側が急、東側はなだらかである。
- ・東側と西側でけずられ方などが違うので、断層を境目にして地質が違っていることがわかる。

○西側の山の特徴

- ・スプーンでえぐったような地形が見られるが、これはが地すべりが起きた地形の特徴である。
- ・南北にのびる谷がたくさんあり、その割れ目にたまった水が流れ出てきて山の中(尾根付近)に川をつくっている
- ・地すべり地形の上の尾根付近にある平らな部分(谷)に魚のいる川があったり、沼があったりした。
- ・湿地は、沼の水がなくなり草が生えてきて形成された(尾根)。

○横川・荒川

- ・横川がためた堆積物を荒川が後から削ったことで段丘ができた。
※段丘…川のところで段になっている層

(2) 野外調査

①赤芝峡

○赤芝峡の地質

赤芝峡の一番東(地点①)にはレキ岩が、西側(地点②)には花こう岩が出ていた。①と②の間を移動するときに通った橋の下付近には流紋岩が見られた。



○異なる岩石の境界

- ・地質図上では、花こう岩とレキ岩の境界があるようだったので、調べようとしたがわからなかった。しかし、それとは別にレキ岩と流紋岩の境界があることがわかった。
- ⇒大小異なった石の粒が入り混ざった石(=レキ岩)が川の側にあるのが見つかり、その付近で流紋岩が確認できたためその付近がレキ岩と流紋岩の境界だとわかった。
- ・大小異なった石の粒と砂や泥と一緒に堆積していたので、土石流によってできたレキ岩であることがわかった。
- ・流紋岩はマグマが地表近くで急に冷えることでできた火山岩である。

○二つの石の特徴で分かったこと

- ・火山岩である流紋岩が近くにあったことから、小国町には、過去(2,300 万年前頃)に活動していた火山があり、その火山があった場所は、海の近く、あるいは海であった。
- ⇒河原の流紋岩に沸石が見られたことから、海底で火山活動が起こった可能性が高い。
- ※沸石；主成分はフッ化カルシウム(CaF_2)で「蛍石」と呼ばれる。
- 溶岩と水(特に海水)が相互作用する場所でつくられる。赤芝峡にあるものは、熱水(温泉水)と溶岩が反応してできたものと思われる。
- ・土石流でできたレキ岩がたくさんあることから、地層が堆積した時には、西側に大きな崖があったと推測される。

②沖庭神社周辺

○地形・地質の概要

- ・眼鏡橋礫岩層(約 1,800 万年前)からなる沖庭山の地形は複雑で、地形図を見てもどこが高くてどこが低いかははっきりしなかったが、頂上付近は等高線の間隔が広く、比較的なだらかな地形だということがわかった。実際歩いてみても凹凸が多く、それを縫うように道があり、また草で覆われた湿地があった。沖庭神社はみつけれなかったが、調べてみると大岩の峰の上にあるということだった。
- ・海で堆積した砂と泥の層(約 1,500 万年前)があった。
- ⇒本来は下にあるはずの砂と泥の層が、今回調査した場所の山では上の方にあったため、隆起して山になったと推測される。
- ・山頂付近には3本の川が流れており、水量が多かった。その川には魚がいて、足元が見えるほど澄んでいてきれいだった。
- ・小国町には地滑りの地形があちこちで見られ、沖庭山の東斜面にはとくに大規模な地滑り地が分布している。地質図によると、沖庭山の東斜面は新第三系(グリーンタフ)からなり、沖庭山の稜線付近から西に花崗岩が分布している。

※グリーンタフ

グリーンタフとは、凝灰岩のうち緑色～緑白色～淡緑色を呈するもののことをいう。地中のグリーンタフはしばしば地すべりのすべり面となり、土砂災害の原因となる。

○登山の途中で見られた割れ目や大岩

- ・割れ目は南北方向にできている。
- ・大岩の主成分はレキ岩である。

⇒扇状地ができた過程でレキ岩が生成された。

レキ岩は円磨されて丸みを帯びたレキを主とする亜円レキ岩。

- ・割れ目や大岩は、同じ時にできた可能性がある。
- ・地滑りや崩壊が発生した時に、落ちなかった部分が割れ目や大岩になった。
- ・大岩と大岩の間に湿地などができている可能性がある。

○山頂の近くに魚が生息するような水辺があった。

- ・尾根と谷が交互にあり、谷の底に沼や平地がある。
- ・山頂付近にある窪地の多くが湿地の可能性がある。
- ・山の尾根に川の流れがある。上流の2つの川が合流したことで、魚が生息できるような水量のある川ができた。
- ・山頂には南北方向に3つの川があり、3つのうち2つは南方向に流れており、もう1つは逆の北向きに流れている。
- ・割れ目に水がたまり、そこからの流れが集まって、川ができていると考えられる。



沖庭神社の山 大岩

5. まとめ

○今回調査した場所の地質、地形の成り立ちについて

1. 約2,300万年前に海底火山の活動によって流紋岩の噴出があり、約7,000万年前にできた花こう岩の上に堆積した。
2. 1,800万年前に東側が陥没して海になり、西側が隆起して境目に急な崖ができ、土流性のレキ岩が堆積した。
3. 海が深くなって、砂や泥の地層が堆積した。
4. 数十万年前以降になってからの構造運動で、現在の地形である西側の山と東側の盆地ができた。
5. 山と盆地の急斜面が崩壊を起こして、落ち残った部分が沖庭神社周辺の割れ目として現在の山頂の地形をつくり、その割れ目が水を貯めて、山頂部なのに川の上流部に豊富な水を供給している。

○防災との関係

- ・西側の山には、過去に地すべりがあったことを示す地形が多く存在することから崩れやすいことがわかった。
- ・赤芝峡の周辺が崩れると天然ダム状態になってしまう危険性がある。

⇒ 赤芝峡…標高約110メートル

小国高校・町役場の所在地…標高約140メートル

市街地のなかで一番標高が高い部分…標高約154メートル

計算上では、崩れた土砂の高さがおよそ30メートルになると、小国高校や町役場が水に浸かりはじめ、およそ40メートルで小国町全体が水没することになる。

6. 感想（個人）

●安達 洸希

小国町の地質や断層など、いろいろ調べることができてよかった。川的位置や山の高さなど、小国町の詳しいところまで調べられて、さらに小国町についてとても興味がわきました。

●伊藤 有汰

模型作りをして、小国町の地形がどのようなになっているのかがよくわかったのでよかったし、やりがいもあり、達成感がとてもあった。良い地域文化学の活動が出来たと思う。

●伊藤 翼

今まで地域文化学を進めてきて、模型作りなど大変なことがありましたが、小国町のことが分かってきて、やりがいが増してきました。沖庭山の調査など、普段の生活では体験できないことができました。

●梅津 慎吾

小国町の地質がどのように作られたかなどを知ることができました。また、赤芝峡に40m以上の土砂がたまってしまうと、小国町は水で埋まってしまうこともわかりました。

●遠藤 春菜

小国町の地質・地形について調べてみて、西側の山が崩れやすいことなど、様々なことを学ぶことが出来たので、これから、小国町の防災について考えていきたいです。

●齋藤 大樹

作業が、模型作りから始まり、調査・発表としてきましたが、自分も作業に貢献でき、これからも地域文化学に貢献していき、より良い地域文化学にしていきたいです。

●島貫 優

小国町の地質や地形について調べてみて、西側の山は地滑りが起きた時にスプーンでえぐったような地形になることなどを知ることが出来ました。

●舟山 慶太

私たちは、「地質学」という分野で研究を進めてきましたが、今回の研究では、小国町の地質は、二つの川を境にして、大きく2つに分かれていることがわかりました。

小国町立体地図模型



「農業廃棄物を利用した汚染飲料水浄化プロジェクト」

～もみ殻で世界を救う～

班員	安部 健翔	安部 圭則	荒川 哲太	伊藤 圭汰
	関本 優太	吉川 昭	船山 眞吾	渡部 優大

1. テーマ設定の理由

今日、世界各地でヒ素などの有害物質を含んだ水を飲んでいる人がたくさんいます。汚染された水を飲み続けると、人体への影響は図りしえません。そういった人たちに浄化されたキレイな水を提供するため、小国町から農業廃棄物として出される「もみ殻」に着目し、そのもみ殻が有害物質を吸着できないかと考えました。

また、多くの工場が小国町にありますが、そこから排出される工業用排水を浄化して自然に帰すことにもつながるのではないかと考えました。

以上の2点に注目して研究のテーマ設定をしました。

2. 研究の概要

(1) 小国町から多く農業用廃棄物として出されるもみ殻を利用しもみ殻の活性炭を作り有害物質で汚染された汚染飲料水を浄化させる。

(2) 小国町の工場が排出している工業用排水を浄化して自然に帰すこと。

について研究、調査してきました。

3. 研究・調査の方法

- (1) もみ殻の活性炭作り
- (2) ラジカルの検出
- (3) 加熱温度の違いによるラジカル量の変化
- (4) 蛍光X線によるヒ素の検出量の変化

4. 研究・調査の結果

(1) もみ殻の活性炭作り

もみ殻の活性炭を作るために電気炉を使用しました。その中で、電気炉のワット数を変えて、様々な種類の活性炭を焼成しました。(写真1・2)

①ワット数を高くして焼成：16分で400度に達した。もみ殻は完全には黒くならず
に色の残っているところがあった。また、もみ殻の形が残っていた。

②ワット数を低くして焼成：43分で400度に達した。もみ殻は完全に黒くなり形
は残ってはいなかった。

①、②よりゆっくり焼成した方がもみ殻をより活性炭にできると分かる。

写真1

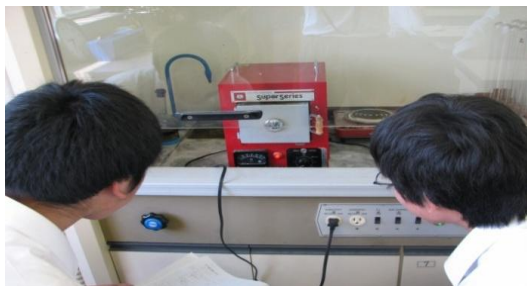


写真2



また、焼成した活性炭を使い紅茶のろ過実験をした。紅茶の着色料が吸着されるかを調
べるためである。紅茶を活性炭に通したところ、下に紅茶が落ちてくるまで3～5日ほど
かかった。結果は紅茶の色素は抜けて透明になり、紅茶の味や香りに変化はなかった。(写
真3・4)

写真3



写真4



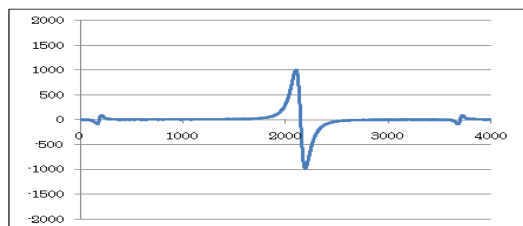
(2) ラジカルの検出

ラジカルという物質がヒ素を吸着しているのではないかと考え、ラジカルを検出するた
め電子スピン共鳴という方法で活性炭にしたもみ殻に含まれるラジカルの量調べた。

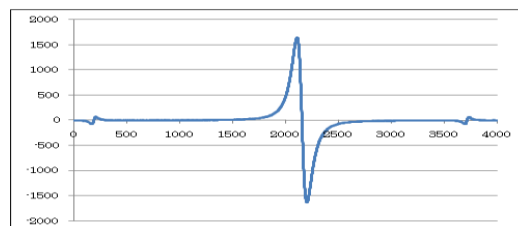
ラジカルとは、もみ殻を400度まで加熱した時に発生する、ヒ素などの有害物質を吸
収する働きがある性質をもつ。ESR（電子スピン共鳴）という装置とDPPHを使い、
ラジカルの量を調べる。

DPPHとはラジカルがどのくらい含まれているか調べる物質である。DPPHがたく
さん含まれているほどラジカルが多く含まれているということになる。グラフ1では上下
が大きいことからDPPHが多く含まれている。このことから、グラフ2にラジカルが多
く含まれていることがわかった。

グラフ 1



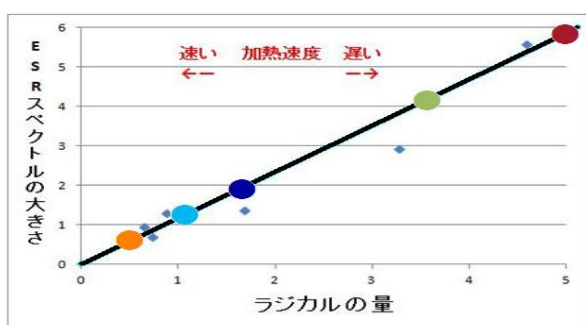
グラフ 2



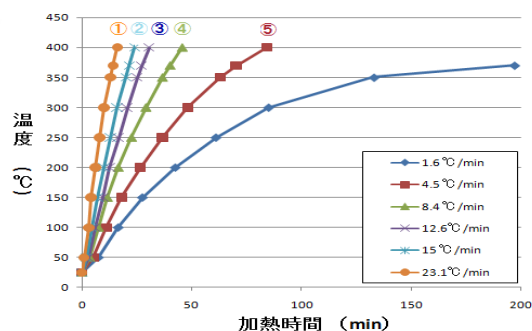
(3) 加熱温度の違いによるラジカル量の変化

次に加熱速度の変化によってラジカル量の量の変化について調べました。グラフ 3 は加熱速度の違いによって発生するラジカル量を表したグラフです。このグラフは、①では加熱速度が速く、⑤になるほど加熱速度が遅いことを表している。その実験データをもとに、加熱温度の変化によって、ラジカル量の量がどう変わってくるのか調べました。この実験グラフから、加熱速度が遅いほどラジカルが多く発生していることがグラフ 4 と照らし合わせると分かります。

グラフ 3



グラフ 4

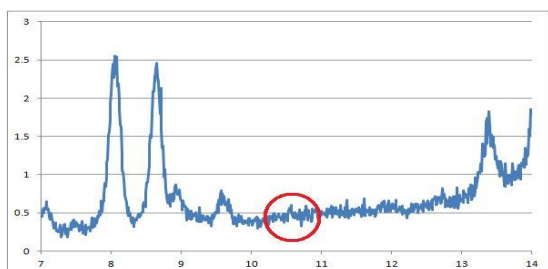


(4) 蛍光X線によるヒ素の検出量の変化

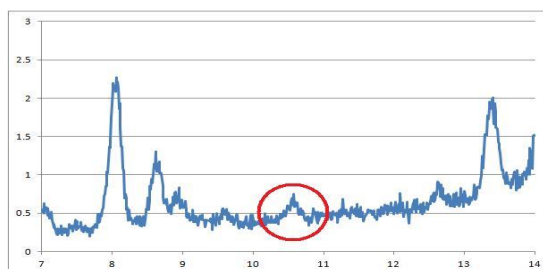
蛍光X線分析装置を使い、試料に吸着されたヒ素の量を調べた。グラフの丸に囲まれた部分が検出されたヒ素の量を表している。

ヒ素水を通す前の試料とヒ素水を通した後の試料のグラフ 5・6 を比較すると、ヒ素水を通す前の試料では検出されなかったヒ素が通した後の試料では、検出されている。つまり、ヒ素を確実に吸着していることが分かる。蛍光X線と言われるヒ素がどの位含まれているかを調べる方法です。※○で囲まれている部分はヒ素の量を表しています。

グラフ 5



グラフ 6



4. 成果と今後の課題

もみ殻を活性炭に作る過程の中、高温で焼き上げた場合は、目標温度に達するまでにかかる時間は短くて済むが、完全に炭にならずに元のもみ殻の色をしている部分がある。反対に低温で焼き上げた場合は、時間こそ長にかかるが、完全に黒化していた。

次に、ラジカルの検出では、D P P Hを使い低温で焼いた活性炭に含まれるラジカルの量を調べると、活性炭にする前のもみ殻と比べると低温で焼いた活性炭に多くのラジカルが含まれていた。

加熱時間を変えた資料を比較すると、加熱していた時間が長いほど、発生したラジカルの量が多くなっていた。また、加熱にかかった時間が5分違っただけでも、発生したラジカルの量は2倍だった。

ヒ素水を通す前の資料とヒ素水を通した後の資料をグラフとして比較したところ、通す前の資料は検出されなかったヒ素が通した後の資料から検出された。つまり、ヒ素を吸着していることが分かった。

以上のことからもみ殻のような小さな物でも低温で長時間焼きあげ活性炭にして、ラジカルを発生させることによって、ヒ素を吸着できることが分かった。加熱速度を変えて焼成することで、活性炭の違いはあまりないが有害物質を吸着力に差が出ることが分かった。できるだけ加熱速度を遅くして活性炭にすることで吸着能力のある活性炭になることが分かった。ラジカルは有害物質を吸着することが分かった。蛍光X線では、ヒ素を通した後のほうにヒ素が多く含まれていることが分かった。同じもみ殻でも、加熱速度をできるだけ遅くすることでラジカルが多くなり、吸着率が上がりヒ素の多く吸着することが分かった。

今回の研究したことは汚染水を浄化するという点から、現在日本の問題になっている原発事故の影響で大量の放射能に汚染された水にも応用できるのではないかと考えました。小国町にのみならず日本や世界を救うための研究に役立てることができないでしょうか。

今回の地域文化学で指導していただいた、山形大学工学部准教授 皆川雅朋先生大変ありがとうございました。

昔物語から探る小国町

齋藤 香穂 塚原奈々枝 小川 奈美 渡部 志ノ
渡邊宗一郎 今 真人 鈴木 拓磨 鈴木 拓弥

1. テーマ設定の理由

私たちは、幼い頃より生活の中で昔物語を聞いて育ってきました。その思い出から、親しみのある小国町に伝わる昔物語を調べ、それを足がかりに町の歴史について探っていきたくと考えました。

図（上杉領邑鑑にある村・文禄4年）より

2. 調査の概要

(1) 昔物語について

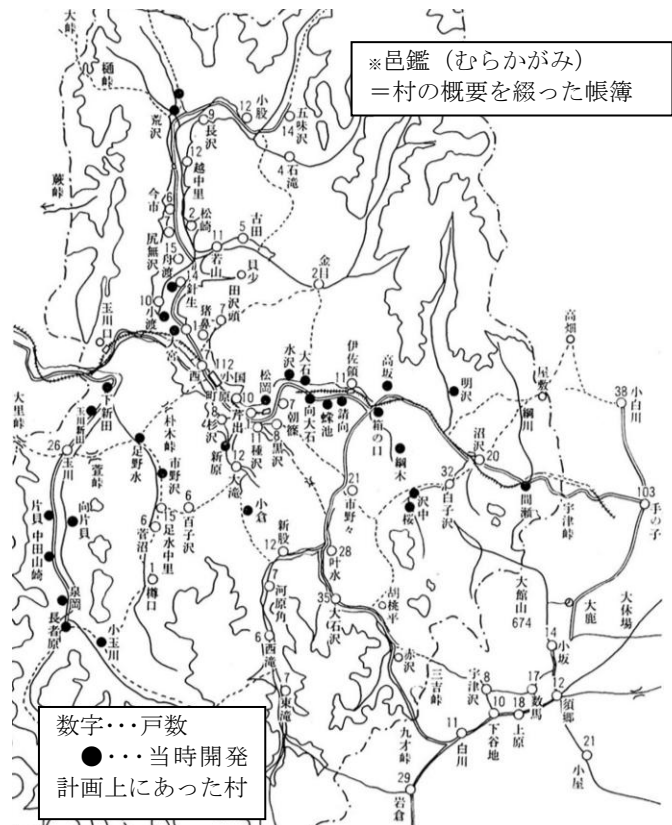
- ① 語り部さん
- ② 語りを聞く

(2) 木地師について

- ① おぐらさん
- ② 山から山へ

(3) 木地玩具を知る

- ① (有)山形工房
- ② 加工を体験



3. 調査の結果

(1) 昔物語について

① 語り部さん

小国町で語り部をされている

後藤弘子さんにお話をお聞きました。

昔物語を語ることは昔の娯楽の一つでもあり、子どもへのしつけなど教育の場でもありました。物語は口こみで各地区に広がり、地元に馴染むように話しが変わった物も多数あり、後藤さんでも純粋な小国町の昔物語を探す事は難しいそうです。

② 語りを聞く

お聞きした昔物語 (話し 後藤弘子氏)	
小豆婆さ (あずきばばさ)	だいてんばこ

子どもに添い寝して子守唄のように聞かせるような場合、子どもが寝ない為に物語の続きをつくり話していく。様な事をしていくうちに長く終わりの無い話しになったり、またそこから別の昔物語に発展していくことなどもあるそうです。

今回お聞きした「語り」の内容は、自然豊かな森や林が背景となっている物語で小国町の東部地区に伝わるものです。そしてそんな東部地区には以前、木地師と呼ばれる方が住み、大石沢の豊富な樹木を活用し、加工して調度品などを拵えていたという歴史がある事を知りました。

そこで次に木地師について探ってみることにしました。

(2) 木地師について

① おぐらさん

木地師の祖先は近江国（滋賀県）発祥とされ、小野宮惟喬親王を祖先とする「小椋」姓を名乗る方が多い。（近江の国 木地師のふるさと）より

以上のことから、町の小椋さんを探したところ、東原にお住まいであるということを知り、小椋郁夫・富子さん宅を訪ねました。



現在、小椋郁夫さんは木地業をされていませんでした。ただ、小さい頃木を荒削りしたお椀の原型のようなものが重ねられているのを見たことがあったそうです。

- ・ 木を切り抜く際に使った先の曲がった鉋（ノミともいった）もあった。
- ・ ろくろは使わず一箇所一箇所、手で削っていた。

小椋郁夫さんは、現在木地業からは離れてしまいましたが、いまでも木の工芸品に関心があるということでお持ちの籠や笠、アケビの蔓やブドウの皮で編んだかごなどを見せていただきました。

幸町にある小椋家の本家を紹介していただき、小椋成一・民子さん宅を訪ねました。



小椋成一さんも現在は木地業をされていませんでした。当時、木地師として来た、初代小椋銀右衛門氏から数えて成一さんは7代目に当たるそうです。

- ・ 山を越え福島の会津から小国へ入り大石沢の口黒に住み木地業を営まれていた。
- ・ 作られたお椀は小国のナラやブナを使用し、自宅ですべて使っていた他に売り物としていた。

小椋成一さんが所蔵する木地師文書を見せていただきました。

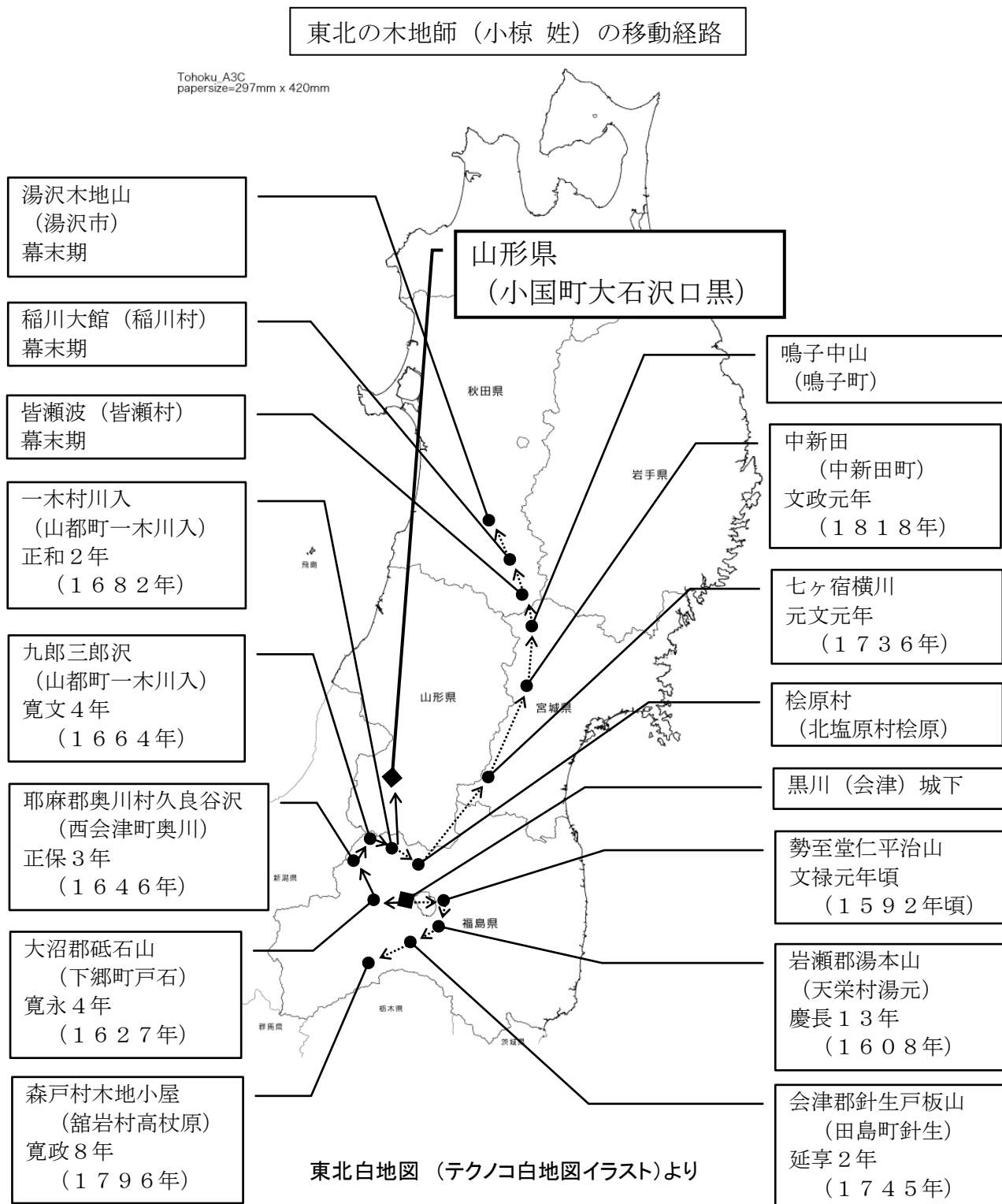


② 山から山へ

木地師は材料となる良い木材を求めては山々を転々と移住していたことがわかりました。そこで東北の木地師の足取りを追ってみることにしました。

- ・ 近江国（滋賀県）東近江市君ヶ畑が木地師発祥の地。といわれている。
- ・ 惟喬親王（A.D. 844-897）が近江に住んだ際、巻物の紐をヒントに考えついたといわれる「ろくろ」を活用し、木地を加工する技術を編みだし、この地の人々に教えた。
- ・ 江戸時代、近江領主の蒲生氏郷（A.D. 1556-1595）が徳川幕府によって会津に封じられ、この時に蒲生氏郷は近江から木地師を呼んだ。このことが会津塗りの始まるきっかけとなり、現在に至っている。また、ここを起点に東北地方の木地業が各地に広がっていった。

調べた事を図にまとめてみました。



(3) 木地玩具を知る

現在、木地業界は大変な苦境に立たされているそうです。後継者などの人材不足の他に、木の加工品そのものの衰退という問題があげられています。安価な大量生産向きの、例えばプラスチック製品などへと生活器具が変化している事も理由の一つです。しかしこんな現代でも木を加工する民芸品などの分野で、昔の伝統を今の技術で木地業界を牽引していらっしゃる方が必ずいると考え、探しました。すると長井市寺泉に木地玩具を生産する会社があることがわかりました。その製品では日本一の製造販売を誇る会社ということで、お話を伺いに訪ねました。

① (有)山形工房

(有)山形工房は日本けん玉協会が製造指定工場に認定する競技用けん玉製造販売日本一の会社です。



けん玉の素材は「剣」と「皿」の部分はブナ。「玉」の部分は山桜を使用し（弾みや密着度合、音の違いがあるため木材を変える）それを切削する際は、自分たちで考えた機械を使用している。

競技用けん玉の規格は10分の1ミリの精度を求められるため、歪みが出ないように木の水分量は14%～17%（米の水分程度）にしている。またその際、自然乾燥を行うため、適した木材にするには最低3年の期間をかける。など木の管理に関しては細心の注意を払っているそうです。

② 加工を体験

実際にけん玉をつくらせていただくことになりました。企業秘密で写真は掲載できませんが職人の方に切削機械操作の手ほどきを受けながら、木の角材から順を追って加工を体験しました。

「東北の大自然が享受する「自然の恵み」そして「木の美しさ」受け継いだ伝統と現代的な技を生かし皆様に愛される製品を作って参ります。」といわれていた良一さん、はじめ工場で働く方々の、木に関するこだわりを感じることができました。木地師の重要な技能の一つに刃物作りがあげられますが、まさに「理想の製品を理想の形にする為だけに存在する理想の刃。世に出回っていない物は自分で作る。」という職人の方のゆるぎない強い情熱を感じることができました。

調査を終えて

自然に満ちあふれた生活環境の中、家族や集落間で育まれ昔物語は多く生まれたことを学びました。そして時代を超えて自分の世代まで小国の昔物語が残っているということは、何気ないようで実は大変素晴らしいことなのだと今回の学習で感じました。幸いにも小国は難を逃れましたが、今年の震災で伝統や文化といったものが無くなるかもしれない状況を目の当たりにした今だからこそ、より一層強く思うことになりました。



また、木地師の調査では木地師の壮絶な人生を知りました。時代と共に状況が変わり以前のように山に入ることが出来なくなり、結果、廃業や転職を余儀なくされました。中にはその土地に愛着を持つようになり、森林豊かな地域に定着していった木地師の方もいました。そんな中、永住の地に小国を選んでもらったという事は、ここで生活する私たちにとって誇りに感じるべき事ではないでしょうか。これから先もずっと自然環境に誇れる町であってほしいと思います。

調査にご協力をいただいた関係者の皆様 大変ありがとうございました。

－「食」と「人とのつながり」から小国の未来を考える－
～今、私たちにできること～

班 員 伊藤 悠希 中原 浩憲 山口 桃果 和田 梨里
市川 拓実 伊藤 浩祐 小嶋真輝人 色摩 千帆 峰田 翔太

1 テーマ設定の理由

今年の 3 月に未曾有の大地震が東日本を襲った。津波や原発の影響で小国町にも福島県を中心に多くの方々が避難してきた。私たちの学年にも一名の転校生がやってきたので、実際に避難所を訪問してみようということになり、最初の取材が始まった。取材をする中で、避難してきた方々に対して、そして今後災害が起こった際に私たちにどのようなことができるだろうかと真剣に考えるようになっていった。

また、昨年度までの高校生が発信する情報誌「0guu」の中で特集してきた「雑穀」について調べていくうちに、雑穀を通した人々のつながりの大切さを感じるようになっていった。そこで、私たちの住む小国町の未来を私たち自身が考えてみようという気持ちが強まり、今回の「0guu」第 4 号のテーマを「食と人とのつながりから小国町の未来を考える～今、私たちにできること～」とした。

2 調査の概要

(1) 特集 1 : 「食～雑穀～」

- ① おぐにまるごと収穫祭～誕生!!おぐに産宇宙種の子供たち～
- ② 「宇宙大豆&雑穀」のそれから
- ③ 田沢頭「かあちゃん s」
- ④ 小国高等学校学校祭～0guu 班・雑穀メニューに挑戦～

(2) 特集 2 : 「人とのつながり～震災支援～」

- ① 小玉川避難所訪問
- ② 被災地支援ボランティア

(3) インタビュー

- ① 東北公益文科大学 呉尚浩先生
- ② おぐに人 その 1 しばた屋 柴田伸也さん
- ③ おぐに人 その 2 Studio こぐま 原田聖さん



3 特集記事概要

(1) 特集1「食～雑穀～」

① おぐにまるごと収穫祭～誕生!!おぐに産宇宙種の子供たち～

宇宙空間で10カ月保管された後、山形県置賜総合支庁産地研究室で栽培された小国町産大豆と雑穀を祝う「おぐにまるごと収穫祭」が、11月12日、道の駅「白い森おぐに」内にある「あいあい」を会場に行われた。収穫祭は、宇宙大豆と雑穀を町内外にPRし消費拡大に結び付けようと企画された。種子引き渡し式には本校2年生（昨年のOguu班）3名が出席した。その後、創作料理試食会があり、「たかきび」などの雑穀と小国産の野菜を使った八種類程の料理が出された。

② 「宇宙大豆&雑穀」のそれから

「Oguu」3号で取り上げられた「宇宙大豆&雑穀」プロジェクトの特集のその後を追ってみた。3月10日、約10カ月の宇宙の旅を終えた小国産の宇宙大豆と雑穀は無事地上に帰還した。6月6日、小国町内の白い森ショッピングセンターアスモで授与式が行われ、昨年の「Oguu」班の2年生5名が出席し、宇宙研究プロジェクト校の任命証をいただいた。現在、全国各地で宇宙から戻ってきた種子が育てられている。その中で小国産の大豆の発芽率は100%であり、雑穀の生育も順調で、宇宙空間の影響は今のところ見られないようだ。小国町では、小国産大豆と雑穀の活用を考える「おぐに秘伝豆&雑穀宇宙プロジェクト」、頭文字を取った通称「OHZAP（オーザップ）」を発足し、今後どのように活用し、町の活性化を目指すかを検討中である。

③ 田沢頭「かあちゃんs」

過去の「Oguu」でも雑穀について紹介されてきた。その中でも、地域をあげて雑穀栽培に力を入れている田沢頭の「かあちゃんs」について取材した。「かあちゃんs」は田沢頭自治会女性部有志のことで、会長の山口康子さんをはじめとする約10名で活動している。最近の主な活動としては雑穀を使った「オグニンドック」などの新しいレシピ作りを考案している。



YBC山形放送の県政広報番組「やまがたサンデー5」でも取り上げられた。取材に伺った8月10日は「かあちゃんs」の山口さん、小野みち子さん、石垣恵子さんの三人が、田沢頭地区で中心になって活動されている石垣正憲さん宅の作業場で大葉の出荷作業を手伝っていた。この地区では「かあちゃんs」を含む子どもからお年寄りまで幅広い年代の住民みんなが、かつ継続的に活動してきたことが評価され、平成22年度に農林水産祭「むらづくり部門」で農林水産大臣賞を受賞している。石垣正憲さんのお話によると雑穀作りがきっかけとなり地域の人々の交流する機会が増えたという。地域活性化につながればと話しておられた。

④ 小国高等学校学校祭～Oguu 班・雑穀料理に挑戦～

7月23日、小国高等学校で学校祭が行われた。町内の田沢頭産の雑穀を小国高校生や一般公開で来校した多くの町民の方々にも食べていただきたいたいと思い、Oguu 班で模擬店を出店することになった。放課後、試作品作りを繰り返してメニューを考え、「雑穀塩おむすび」と「雑穀ホットケーキ」の2種類を販売した。「雑穀ホットケーキ」は「たかきび」の粉を入れたことにより、もちもち感が増した。「雑穀塩おむすび」は雑穀の味がわかりやすいように塩味のみというシンプルな味にした。1個50円ということもあり、あっという間に完売した。実際に雑穀料理を作ってみて、自分たち自身も雑穀をより知ることができた。学校祭での紹介を通し、多くの方々に興味を持ってもらえる機会になったと思う。

(2) 特集2「人とのつながり～震災支援～」

① 小玉川避難所訪問

3月11日、東日本大震災が起これ、各地に甚大な被害をもたらした。私たちも改めて地震の恐ろしさを感じた。6月21日、この地震や原発の影響で小国町にも避難されている方がいると聞き、旧小玉川小中学校の避難所を訪問した。福島県浪江町から避難されている方々数名にお話をお聞きし、今まで暮らしていた町が目を見詰めるほどに変わってしまった様子や、実際に大きな地震を肌で感じたからこそ言える体験談をお聞きした。人とのつながりの大切さや、自分たちにもできること、そして、もしもに備えて対策を立てることなど様々なことを考えさせられた。現在、避難所は閉鎖となり、避難者の多くは福島県の仮設住宅に移られた。

② 被災地ボランティア

小玉川避難所訪問をして避難している方々の話をお聞きし、私たちにできることはないかと強く考えさせられた。そこで、小国町内ではどのような支援活動を行っているのかを知りたいと思うようになり、8月19日、被災地で精力的にボランティア活動を行っている



渡邊重信さんに取材をすることになった。渡邊さんは、昨年まで山形県商工会青年部連合会会長をされており、山形県の代表として全国の方々と積極的に交流されてきた。一緒に活動していた方がこの震災で亡くなられて、その家族が困っている様子を見て支援を始めたという。私たちが訪問した日は宮城県石巻市雄勝に援助に行く直前だったので、支援物資の荷造りの手伝いを一緒にさせていただいた。たくさんの物資が全国から小国町に集められ、被災地に運ばれていることを知った。渡邊さんはじめボランティアをされている方々は、仮設住宅一軒一軒に必要な物資を聞き、それぞれの方に必要なものを準備し届けている。相手の立場に立ったきめ細やかな支援に感心した。小国町内にこのように熱意を持って行動している方々がたくさんいらっしゃることを知り、とても誇りに感じた。

(3) インタビュー

① 呉尚浩先生インタビュー

4年前から本校の地域文化学でご指導いただいている東北公益文科大学の呉尚浩先生にお話をお伺いした。普段は知ることのできない呉先生の活動や小国町に対する思いをお聞きすることができた。地元に住んでいる私たち以上に小国町のことをよく考えて下さっていることがよくわかり、小国町の魅力を再確認した。

② おぐに人 その1 しばた屋 柴田伸也さん

小国駅前にある「しばた屋」の店主である柴田伸也さんは、小国町の食材を使ったお菓子を作りによって、町の魅力を伝えていきたいと考えている。しばた屋では雑穀「たかきび」を使った「たかきび大福」や「黄金タモギ」というキノコを使った「タモギっちょ」というお菓子を製造・販売している。柴田さんのお話から小国町を活性化させようとしている方が多くいることを知り、心強く感じた。また、柴田さん自身も情熱を持ってお菓子作りをされており、町をよりよくしたいという思いが伝わってきた。

③ おぐに人 その2 Studio こぐま 原田聖さん

旧小玉川小中学校を拠点に芸術活動を行い、地域の活性化に力を入れている「studio こぐま」の原田聖さんに取材させていただいた。「studio こぐま」は現在、東北芸術工科大学の卒業生3名で活動している。子どもの「ツキノワグマ」がこれから大きく成長して「おおぐま」になるという思いを込めて名付けたそうだ。油絵、兜、甲冑などの作品展示の他にも「デッサン教室」「キャンドル作り」「わらびサイクリング」等様々な企画も行っている。

4 活動のまとめ

(1) 特集1「食 ～雑穀～」について

田沢頭「かあちゃんs」や山口ひとみさん、石垣正憲さんに取材をして、どの方々も「人と人とのつながりは大事だ」とおっしゃっていた。私たち自身も雑穀の取材を通して様々な方と関わり、人とのつながりができた。私たちも雑穀の味や栄養価の高さを多くの方に知ってもらおうと、学校祭や校内のいも煮会で雑穀を紹介した。



「雑穀はどんな料理にでも合う。ぜひみんなに食べてもらって」という石垣さんのアドバイスを受けて、1学年行事のいも煮会の際に、「たかきび」を茹でたものをいも煮に入れて、先生方や1学年の生徒に食べてもらい、直接感想を聞いた。大部分の人が雑穀を食べたのが初めてだったので、予想以上に雑穀の認知度が町内でさえ低いことがわかった。まずは、町内の方や小国高校生に、雑穀の栄養価の高さや手軽さを知ってもらえることが第一歩だと感じた。

(2) 特集2「人とのつながり～震災支援～」について

地震や原発の被害で避難されて来た福島県浪江町の皆さんは辛い状況下にも関わらず、笑顔を交えながら明るく私たちのインタビューに答えてくださった。前向きにこれからの生活を送ろうとしている様子が感じられ、私たちの方が元気を分けてもらった。私たちの見えるところ、見えないところで様々な方々が互いに支え合って生きていることを知った。この時、避難所になっていた旧小玉川小中学校は「Studio こぐま」の活動場所にもなっていた。避難所には数名の子どもたちがいたが、インタビュー中もこぐまの原田さんの周りを離れずにいて普段から親しくしている雰囲気が伝わってきた。ここでもまた人と人とのつながりの大切さと共に人と人との出会いの不思議さを感じた。

被災地支援ボランティアを行っている方に直接お話をお聞きし、私たちの想像以上に地震直後の被災地の悲惨な状況、そして仮設住宅に暮らす人々の今なお大変な現状を知ることができた。マスコミで聞く現地の復興状況とは違い、被災地で生活する方々の苦労が少しわかった気がする。自分たちが平和に幸せに暮らせることに感謝しつつ、だんだんと薄れていく地震の被害を忘れないように記憶に留めておきたいと思った。一日も早い復興を祈りたい。

(3) インタビューについて

小国町に関わりのある、小国町の活性化に尽力されている方々にインタビューを行った。それぞれの皆さんから小国町に対する熱い思いが伝わってきた。私たち自身が小国町の良さを見直す機会をいただいた気がする。

(4) 取材・調査を行っての感想

- ・ Oguu 制作をして、自分たちが住んでいる小国町のことを詳しく知ることができてよかった。(山口 桃果)
- ・ 今回、宇宙大豆・雑穀を調べてみて興味が湧いた。今後どのように活用されていくか注目していきたい。(小嶋真輝人)
- ・ 小国町を活性化させようとしている人がこの町に多くいることがわかった。自分たちも貢献したいと思った。(伊藤 浩祐)
- ・ 自分の生活している町について調べることはすごく楽しかった。(中原 浩憲)
- ・ 小国町で行っているボランティア活動について理解できた。これからは自分たちが小国町をよくしていきたい。(伊藤 悠希)
- ・ 小国町で支援やボランティアをしている方が多くいることを知った。(和田 梨里)
- ・ Oguu を作るにあたって、たくさんの場所に取材に行った。大変だったが、その分頑張った甲斐がある内容になってよかった。(市川 拓実)
- ・ 思っていた以上に文章にまとめるのが難しかった。「studio こぐま」の皆さんのように自分たちも地域活性化に協力したいと思った。(峰田 翔太)
- ・ 今回 Oguu 制作に携わって、人とのつながりの大切さを改めて知った。小国町は人と人とのつながりが深くいい町だと思った。(色摩 千帆)



「私たちが考えるパワースポット～小国町の魅力を求めて～」

班員 小松 司 前田育代 磯部 改 梅津由紀 佐藤鴻泰
高石湧人 塚原力哉 大谷美冬 羽田玲未

1. テーマ設定の理由

私達は最近テレビや雑誌で話題になっているパワースポットについて注目した。私達の住んでいる小国町にもパワースポットがあると考え、自分たちで探しだし、小国町の新たな観光資源になればと考えこのテーマを選んだ。

2. 調査の概要

- (1) パワースポットの定義について
- (2) 自然の中のパワースポット
- (3) 社寺にあるパワースポット
- (4) 伝承の中にあるパワースポット

3. 調査の結果

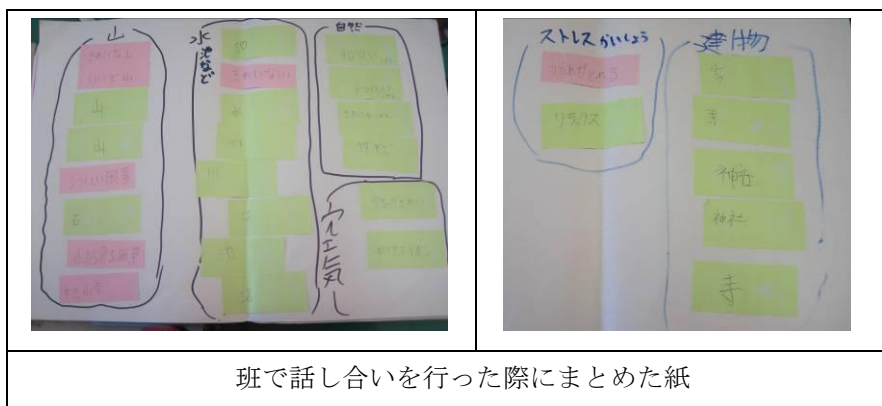
- (1) パワースポットの定義について

①社会一般的に言われているパワースポットとは

心身を癒してくれる自然のエネルギー、良い波動や天のエネルギーに満ちた場所、メディアが作りあげた聖地など言われていることがわかったが、定義を語る人によってばらばらであった。そこで、自分たちの中でパワースポットの定義とは何か話し合うことにした。

②私たちが考えたパワースポットの定義

一人ひとり符箋にパワースポットのイメージを書き出し、それをグループ分けして紙に貼り付けた。そして、リラックスできる場所、川や森などの自然、神社やお寺、人から人へ語り継がれている伝承の中にパワースポットがあると定義付けることにした。この「自然」「社寺」「伝承」の3つに絞り、調査を行うことにした。



- (2) 自然の中のパワースポット

まず、自然の中にあるパワースポットについて調査を行った。

①小玉川地区 天狗平・温身平

温身平はすでに森林セラピーなどの小国町のパワースポットとしてPRされていた。温身平のブナの森の中には、森の巨人たち100選に選ばれたヤチダモの木があり、自然の力を感じるこ

とができた。近くにある川の前を通るとマイナスイオンと涼しい風が体を癒してくれた。

②沖庭地区 若山にある川

小国高校生に癒される場所はどこが聞いてみたところ、沖庭地区の川が多くあげられたので行ってみることにした。川はとてもきれいで空気も澄んでいて心が洗われるようだった。カルシウムたっぷりのカジカという魚もいて魚獲りも楽しむことができる。

③大滝地区 大滝橋

大滝橋の下には大滝川という川が流れていて、橋の上に立つととても涼しい。橋の上からは、とても小さいが、滝のようなものを見ることができる。大きい道路から少し小道に入った所にあるので穴場スポットである。

④あけぼの地区 清水

小国町立病院の近くに清水がある。湧水のところには湯のみ茶碗があり、そのまま飲むことができる。飲んでみるととても冷たくおいしい水であった。小国町の清水は、このほかに30ヵ所ぐらいある。調査は8月の熱い時期であったが、触るととても冷たく感じるほどおいしい水だった。

			
温身平のぶなの原生林	沖庭地区にある川	大滝橋付近の川	あけぼの地区の清水

(3) 社寺にあるパワースポット

①小坂町地区 八幡神社

神社の周囲には桜の木がたくさんあり、春には桜が満開になり、たくさんの桜の花びらに囲まれてお花見をすることもできる。約850年前に設立され、狐の祠には栃木県にある火伏せで有名な古峯神社の札があり、山形県小国町まで信仰が及んでいることがわかった。歴史もあり、神秘的な神社であった。

②岩井沢地区 二ノ宮神社

大きさは他の神社と比べて小さいが、昔武士達が自分達の神様として祭り、その戦勝祈願をしたと伝えられている。現在小国町では、中学3年生の受験生の合格祈願として夏にお神輿を担いでいる。学業の神様としての知名度がまだ少ないので、もっと町の人にも宣伝していきたいと思った。

③大滝地区 古志王神社

神社に行くまで約170段の階段を登らなければいけない。また、普通神社は南を向いているのであるが、日本の古代民族の1つであった古志族の母国がある北を向いている。階段を登るのは大変であるが、階段を登っている間に願い事を考えながら行くと最後登りきった時に願いが叶うような気持ちになった。この神社を参拝すると、イボがなくなるといわれていて、『イボ取り神社』とも地域の人から言われている。周りにはイボがとれる神社であることなど何も情報がなかった。

④大滝地区 不動明王神社

大滝川の近くにあり、火の神様がいると言われ、参拝すると目が悪くならないとも言われている。参拝している時、川の涼しさを含んだ風がとても涼しく気持ちよかった。

⑤小坂町地区 上杉神社

米沢の元県社上杉神社(祭神・上杉謙信・同治憲)の分社として明治11年4月造建された。町の人々は「県社山」と呼んでいてそこから眺める景色は見晴らしがよく、天気の良い時は遠くの綺麗な山も見える。上杉謙信の分社だということをもっとアピールしていけばもっと小国を知ってもらえると思った。

⑥岩井沢地区 諏訪神社

敷地がとても広く、鳥居をくぐった後、線路を渡ってから参拝する場所に行かなければならない。これまで行った神社の中でもトンボや蝶など生き物が多く生息していた。慶長5年(または6年)松本伊賀守助義が小国城代として着任し、その際、信州諏訪大明神を勧請したものである。

⑦町原地区 正一位稻荷神社

あまり人気がなく、少々怖い雰囲気があった。高いところにある神社で見下ろすとすぐ国道が見えた。高い場所にある神社ということで、パワーを得やすいのかもしれないという班員の意見がでた。

⑧大宮地区 大宮子易神社

境内が広くて、中に大宮神社と和合宮がある。ここに来ると子宝に恵まれ、安産できるといわれている。神社には安産枕があり、昔からこの枕を使うと安産できるといわれています。この安産枕は、別の人が奉納したものを持ち帰って、安産できたら自分で枕をつくって奉納することになっている。全体の雰囲気は、周りを木で囲まれており、神秘的な感じがした。また、和合舎の中には、越後金丸と横川種沢で発見された男石と女石があり、石の大きさに圧倒された。その近くに産屋があり、かつて出産の時に村中の人たちが集まって粗末な小屋を建てて産婦が帰るとすぐに取り壊していたものである。また、少しでも産屋に入った者は必ず塩で身を清めてから家に入る。これらの習慣は最近まで続いており、特に東北地方で多く見られたものであった。産屋は当時のままに残っているので、お産の雰囲気を体感することができる大変貴重な場所である。



目がよくなる不動明王神社



大宮子易神社近くの産屋



諏訪神社

(4) 伝承の中にあるパワースポット

①東原地区 飛泉寺 イチョウの木

飛泉寺は、昔、市野々地区に建てられたもので、その後横川ダム建設のため、東原地区に移され、現在の外観は他の神社と変わりはない。私達は、かつて市野々地区にあった飛泉寺の近くにあるイチョウの木に注目し、このイチョウの木について東原地区にお住まいの高橋郁造さんに話

を伺った。市野々地区にあるイチョウの木は、ある和尚さんがイチョウの木の枝を飛泉寺の隣に
 さしたところ、その枝が大きなイチョウの木になったと言われている。樹齢は、200年
 から300年またはそれ以上と言われて、子供20人程で木のまわりを囲めるほど大きい木であ
 った。この木はメスの木で、東北地方では3本しか確認されていない。このイチョウの木は市野々
 地区の人々から親しまれ、神木として大切にされてきたそうで、横川ダムが建設されることでイ
 チョウの木がなくなることに対抗する人がたくさんいた。ダム建設により、イチョウの木は移動
 されることになり、その際木を切り落としたため、移動したイチョウの木は以前よりも小さくな
 った。実際に見に行ってみたが、小さいとはいっても、私達7人で木を囲むほどの大きさでとて
 も神々しかった。調査に行った日は快晴で、イチョウの葉の緑と青空が交わり、とてもきれいだ
 った。班員全員がこのイチョウの木は小国町を代表するパワースポットになると考えた。

		
イチョウの木	お話を伺った高橋郁造さん	両脇のお地蔵さまはイチョウの枝 で作ったもの

②箱ノ口地区 熊の石

代々熊の猟師をしていた高橋憲一さんにお話を伺った。昔、撃ってはいけない熊を撃ってしま
 い、谷底を覗いたところ熊の姿はなく、その代わりに熊の形をした石があり、その石を熊の石と
 して高橋さんの先祖が祭ったということであった。実際に見に行くと石は熊の形をしておらず、
 高橋さんによるとこの石の下に熊の形をした石があるということだった。高橋さんのお宅では、
 熊に襲われないようにするためにこの石を祭っていて、高橋さんは熊に会っても熊の方から逃げ
 ていくという不思議な話を聞くことができた。

	
熊の石	熊の石の話を伺った高橋憲一さん

③箱ノ口地区 いぼとり地蔵

江戸時代後期、この地方に皮膚病が流行し、地蔵様を分けてもらいこの「祠」を建てた。ここで
 転ぶとイボができ、参拝すると、イボが治るという言い伝えがある。参拝の仕方は、砂糖で炒め
 た豆を歳の数程お供えし、お祈りした後はお供えしたものを全て持ち帰り、本人が食べるそうだ。

お供え物になるのはお米が多いらしいが、ここでは米があまりとれず、その代わりに当時貴重であった豆を供えたと考えられた。

④小坂町地区 上杉神社

上杉神社の近くには、草木供養の石があった。習字をするときに使う墨を作るのに木を切って墨にしてからつくるため、墨として使われた木を供養する気持ちをこめて作ったものらしい。当時の人の心の繊細さを感じることができた。

4. 調査を終えて

小国町のパワースポットめぐりをしてみて、小国町にもたくさんのパワースポットがあると体感できた。また、私たちが考えたパワースポットについて案内板を立てれば、たくさんの人が集まると思う。そして、人々にとっての癒しである小国町の自然を大切にすることは、人々のパワーの源になるということがわかった。これからも小国町の自然と文化を大切にしていきたいと思います。

(感想)

- ・すごく疲れましたが、今まで知らなかったことも発見できたので良かったです。原先生は優しい先生で楽しく学習できました。(塚原力哉)
- ・小国町の魅力を改めてみつけることができたので良かったです。(高石湧人)
- ・調査をしていく上で、小国町のパワースポットとは何か知れて良かったです。また、調査でいろいろな所に行けて楽しかったです。(前田育世)
- ・今回の地域文化学で僕達の知らない小国のパワースポットをたくさん知ることができました。また、原先生に指導して頂いてとてもうれしかったです。(磯部改)
- ・小国町のパワースポットを調査して、パワースポットがたくさんあることがわかりました。今後、今回学んだことを町の人たちに紹介したいです。(小松司)
- ・私たちは小国町のパワースポットについて調査をしました。私も知らない小国町を知ることができてよかったし、楽しかったです。(羽田玲未)
- ・地域文化学で様々な調査をして感じたことは自分たちの住んでいる小国町の普段気がつかないところを知ることができたので良かったです。(佐藤鴻泰)
- ・小国町の知らなかったことや、知っていても詳しいことが分からなかったことなど、色々なことを学んだり知ることができて良かったです。(大谷美冬)
- ・今回の調査で小国町の新たな魅力を知ることが出来ました。そして、小国町はとても誇りに持っている町だと分かりました。これからも小国町を大切にしたいです。(梅津由紀)

参考資料

『現代用語の基礎知識 2011』

『小国町史』

『小国郷の伝説・言い伝え集』

「小国町における保育と介護の現状」

班員 今野美涼 坂上千賀 齋藤奈々 相馬良南
栗野綾乃 佐藤 栞 山口茉耶 和田愛結美

1. テーマ設定の理由

私たちが住んでいる小国町は、自然豊かな美しい町である。しかし、全国的に少子高齢化がすすみ、小国町も例外ではない。小国町の高齢化や少子化に関連してどのようなことが起きているのかを調べることは、自分たちの生き方そのものを考えることである。私たちが生まれて育ち、年老いていくことを社会問題として捉え、小国町の保育と介護の状況を調査することをテーマとした。

2. 調査の概要・方法

- (1) 小国町や県・総務省のウェブサイトなどインターネットで情報を収集
- (2) 夏季休業等を利用したフィールドワーク
- (3) 調査した資料を分類しまとめる

3. 調査の結果

(1) 保育について

小国町の人口は、8,921 人である（平成 23 年 10 月 31 日現在）が、過去 25 年で徐々に減少が進んでいる。0 歳から 14 歳までの人口については、約 2,000 人から約 1,000 人と半減している。その影響を受けて、これまで 4 つの保育所と 4 つのへき地保育所があったが、2 つのへき地保育所では募集を停止している。

	S60	H2	H7	H12	H17	H21
総数	12,096 人	11,315 人	10,715 人	10,262 人	9,893 人	9,252 人
0～14 歳	2,202 人	1,941 人	1,699 人	1,486 人	1,313 人	1,107 人
割合	18.20%	17.15%	15.86%	14.86%	13.27%	11.96%
15～64 歳	8,099 人	7,218 人	6,512 人	5,943 人	5,556 人	5,074 人
割合	66.96%	63.79%	60.77%	57.91%	56.16%	54.84%
65 歳以上	1,795 人	2,156 人	2,504 人	2,833 人	3,024 人	3,071 人
割合	14.84%	19.05%	23.37%	27.61%	30.57%	33.19%

平成 23 年 6 月 21 日、保健管理センターを訪問し、保育に関する聞き取り調査を行った。少子化については以下のようにまとめられる。

- ① 国の出産率のピークは 1973 年（小国町は 1955 年）
- ② 第一次オイルショック後の 1975 年以降、出産率は減少傾向が顕著に
- ③ 晩婚化・晩産化の進展 → 女性一人あたりの生涯出産数の減少

さらに、晩婚化や無産化の要因については、

- ① 日本は、働く女性が多くなり結婚や育児・教育環境に高い条件を求める傾向が強まっている。
- ② 男女ともに家庭をもたないという独立傾向にある。
小国町では、晩婚化については、過去約 20 年の間で結婚する年齢が、男女とも 2 歳程度高くなっている。
- ③ 女性の社会進出や経済的に安定しないことで子どもを産まない女性も増えている。

小国町では就学前児童数 363 人に対して 278 人が入所しており、待機児童はいない。入所率が高い理由として、両親が共働きで祖父母も同じように日中仕事がある世帯が多いことが挙げられる。



【保健管理センターでの一問一答】

・ 保育園に入るためには？

【回答】直接希望する保育園に出向くのではなく、町の窓口へ申請する

・ 小国町での少子化社会の影響は？

【回答】こども会や育成会、さらに学校がなくなってしまう。

運動会など行事でつながっていた地域の結びつきが弱くなる。

- ・保育に関わることで心がけておられる事は？

【回答】名前と顔・性格・環境をインプットしてその子にあった保育を目指す。その子の持ち味は生かし、直すべきところは直すことを心がけている。

- ・保育所とは、保護者が働いているなどの何らかの理由によって保育に欠ける児童を預り保育することを目的とする通所の施設である。認可施設は、税金や保育料でまかなわれるが、小国では以下のように優遇されている。

- ・他町より月約3,000円も安い
- ・二人目 半額
- ・三人目 無料

また、小国町は子育て支援策としては、以下のことを行っている。

ファミリーサポーター

- ・・・仕事などで母親が育児等ができないときに、代わりに子どもの世話をしてくれる組織。

育児講座・・・子育て中の母親のいろんな悩みに答えてくれる保健センター。「事故予防と応急手当」「病気の時のホームケア」「虫歯予防」についてなど。

一時保育・・・就学前の乳幼児を毎日預ける「月極保育」に対して、様々な理由で一時的に乳幼児を預ける制度。

小国町保育施設についての課題

- 保育所側・・・もっと保育士の数を増やしたい
(保育士の採用は減らして臨時職員で対応している現状)
- 親の要望・・・土日も保育園をやってほしい。

仮に、上記の課題が解決したとしても、子どもが保育所にいる時間が長くなれば、親と接する時間が短くなることは問題である。

(2) 介護について

平成 23 年 8 月 22 日、特別養護老人ホーム「さいわい荘」を訪問し、小国町の介護に関する聞き取り調査を行った。老人病院センターがない小国町では特別養護老人ホーム「さいわい荘」が受け入れの幅を広げている。デイ・サービス・センターとしての役割も担い、介護の重要な拠点となっている。保育所と違って直接的に利用料の優遇措置はないが、施設拡張のための助成を小国町が行っている

世帯数の推移

年度	S60	H2	H7	H12	H17	H21
世帯数	3,337	3,217	3,163	3,209	3,277	3,229
総人口	12,096	11,315	10,715	10,262	9,742	9,252
1 世帯あたり人員	3.62	3.52	3.33	3.20	2.97	2.87

小国町は、人口減少しているが、世帯数はそれほど減っていない。国、山形県の高齢化率を上回り山形県内で最も高い。平成 21 年には小国町の 3 人に 1 人が高齢者となっている。

65 歳以上だけの世帯・・・400 世帯

ひとり暮らしの世帯・・・400 世帯

このことは、小国町の特筆すべきことと思われる。

4 成果や今後の課題

保育料の優遇措置やさいわい荘の増床工事について知ること、小国町が福祉に手厚く対応されていることがわかった。しかし、その助成は町の税収に依存している。このまま少子高齢化と人口減少が続けば、せっかくの小国町の優遇していることが継続できなくなってしまう。この問題を解決する鍵は、小国町から出ていく若者をいかに残すかである。「若者が働ける仕事場を作る」「若者たちがつきたい職業を増やす」ことが解決しなければならない課題であると、強く思うようになった。

最後に羽陽学園短期大学 佐々木達雄先生には施設訪問に一緒に行っていた、また保育や介護の現状についての VTR 視聴を通して多くのご指導をいただいた。本当にありがとうございました。

「小国町の医療と福祉の現状と課題」

班員	医療	安部真悠子	高橋奈々	今 幸哉	渡部継三
	福祉（保育）	渡部紗弓	安部郁美	木村卓也	
	福祉（介護）	今 瑞葉	舟山美咲		

1 テーマ設定の理由

最初に三友堂看護専門学校の遠藤先生から、いのちやライフプラン(生涯設計)について講義をしていただきました。このなかで健康の保持・増進ために地域住民ができることや住みやすい町づくりについて考え、その後、医療と福祉について基本的なことを調べました。調べて行くなかで現状を知りたいと思い、小国町の医療と福祉について調査しあわせて課題を探ってみることにして、このテーマを設定しました。

2 調査の概要

- (1) 小国町の医療について（小国病院訪問調査）
- (2) 小国町の保育について（おぐに保育園訪問調査）
- (3) 小国町の介護について（さいわい荘訪問調査）



(小国病院での訪問調査)

3 調査の結果

(1) 小国町の医療について

最初に、小国病院で専門看護師や認定看護師さんについて、教えていただきました。この2つの資格は、1996年に日本看護協会によって設立された資格です。専門看護師とは、卓越した看護実践能力を有する看護師のことをいいます。現在、全国でおよそ600名で、山形県内では、まだいません。認定看護師というのは、特定の看護分野でのスペシャリストのことです。全国ではおよそ9000名、山形県内では、76名の看護師さんが認定されていますが、小国病院には今のところ、いないということでした。

次に、小国町で医療と福祉を結び付けているということについて伺いました。平成4年度に小国町で構想が建てられ、平成6年度に包括ケアタウン計画が策定されました。包括ケアタウンというのは、医療と福祉と保健を結びつける町ということです。そして、平成8年度に建設が始まり、平成12年度に完成して、小国町立病院と、老人福祉施設「温身の里」、そして健康管理センターが、1か所につくられました。



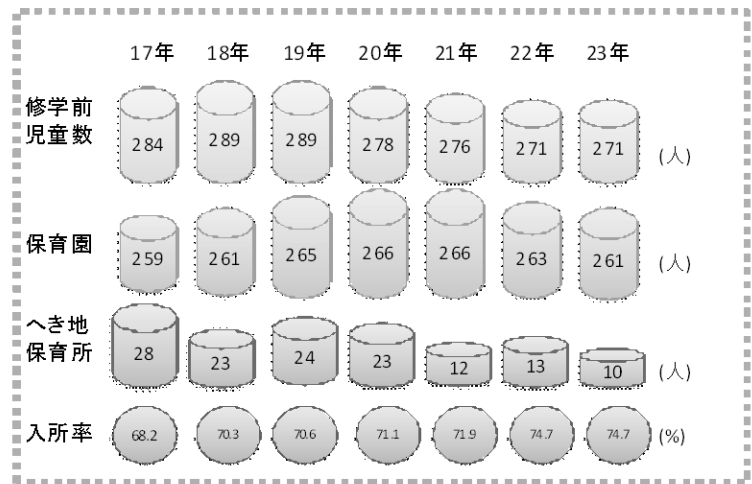
☆入所児童数☆

康的、洞察力が優れている人、掃除が得意な人、それから、楽しんでできる人、工作が得意な人などです。

次に小国町の園児数をお聞きして、右のグラフにまとめました。就学前児童数は、町内の小学校入学前の子どもの数です。保育園のところの数字は、※町内4つの保育園に入っている子ども数です。へき地保育所は、交通条件等に恵まれない地域の保育所のことで、小国町では、

あさひ保育園や叶水保育園のことをいいます。入所率は、就学前児童の中で保育所などに入所している子どもの割合です。このグラフから分かるように、子どもの数が減っているのに対して、入所園児数はあまり減っていません。また、入所率は増加傾向です。これには、母親で働いている方の数が増えたことに比例して、入所率が高くなったことなど、さまざまな理由があります。子どもが、小さいうちに家族と過ごす時間が減っているのは、決していいこととは言えません。これに対して、おぐに保育園では、「共働きの夫婦が増え、保育所の入所率が増加傾向にあることについては仕方ないと思いますが、家で子どもと過ごす時間を確保して欲しいという思いもあり、複雑な心境です。」とおっしゃっていました。

※町内4つの保育園は、おぐに保育園・白百合保育園・すみれ保育園・おきにわ保育園。



(3) 小国町の介護について

介護とは、心身に故障があっても、その人らしい生活習慣をできるだけ尊重して自立できるようにすることです。その介護の「介」という文字には、「助ける、世話をする」という意味があります。介護の「護」を訓読みにすると「まもる」で、「守る」という意味になります。ですから、「介護」という文字で表される意味は「助ける、守る」ということになります。

さいわい荘では、まず、介護に向いているのはどういう人かということのを伺いました。それは、お年寄りが好きな人、また、人が好きな人だとおっしゃっていました、介護に関わる資格については、さいわい荘に勤めている間に習得できる次のような資格について教えていただきました。

<介護に関わる資格>

資格名	業務
ケアワーカー	介護・身の回りの世話・生活相談などを直接行う援助者。
ホームヘルパー	1級から3級まであり、自宅に訪問して家事や介護を行う。
ガイドヘルパー	車椅子で外出する方の介助を行う。
介護福祉士	介護職のなかで指導的な立場に立ち、自立支援や家族への指導を行う。
ケアマネージャー (介護専門支援員)	介護希望者の生活を調査して、医師の意見・指導をもとに要支援1～2・要介護1～5と判定して、具体的なサービスを計画してケアプランを作成する。
社会福祉士	介護だけではなく福祉全般に関わる職業で、相談に応じて助言・指導また福祉や保健医療サービスを提供する関係者との連携・調整その他の援助を行う。

次に、介護の課題としてとらえていることについて、教えていただきました。さいわい荘ではデイサービスも行っていますが、デイサービスでは冬季の送り迎えが、雪が多いために大変だそうです。また、課題としては、小国町には高齢者の方の一人暮らしが多いということだそうです。また、若い世代の人材の確保も難しいとおっしゃっていました。

現在、さいわい荘では、入居できる方の数を増やすために増設工事を行っていて、より多くの方を受け入れようとしていることが分かりました。

(4) 考察

- ① 小国病院に、専門看護師や認定看護師がいない理由としては、そもそも全国的にもまだ数が少ないことと、小国病院は、置賜のより高度な医療を担う公立置賜総合病院と連携をはかっていることが考えられます。
- ② 全国的に地方での医師不足の問題が起きているなかで、国がお産に関わる医療の制度を変更するのだったら、それを可能とする国の支援が人件費の面も含めて必要なのではないのでしょうか。町内でお産ができなくなり、例えば 37 キロ離れた公立置賜総合病院に入院しなければならないということは、妊婦さんや家族にとって大きな不安になると思うし、私たちの将来のことを考えてみても、とても大きな問題で、どうしても改善してもらいたい課題だと思います。
- ③ 保育での今後の課題は、親と子どもが過ごす時間をもっと確保できるようにし、その時間を大切に使うことだと思います。また、介護では、コミュニケーションや、思いやりの心を大切にすることが大事だということが分かりました。

最後に、これまで協力していただいた小国病院・おぐに保育園・さいわい荘の方々、ご指導していただいた三友堂看護専門学校の遠藤先生に感謝いたします。



(遠藤先生と一緒に)